

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会 (メル・ブックス)
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



♪箕面ユネスコ協会の活動を
載せています
『箕面ユネスコ協会』
で検索してください♥

♪毎月の最新情報が
載っています
『ユネスコ協会便 12月号』
で検索してください♥

箕面ユネスコ協会 報告会・気仙沼の食を楽しむ会

心温まるひとときに感謝して

2月8日(土)に、らいとぴあ21にて開催された、「箕面ユネスコ協会報告会&気仙沼の食を楽しむ会」に、昨年度に引き続きご招待を受け、参加させていただき大変有意義で楽しい時間を過ごさせていただきました。特に印象的だったのは、高校生や大学生など、次世代を担



う若い世代の皆さんによる報告会の様子です。能登や気仙沼での震災復興ボランティア、ネパールツアー、更には、小学生も参加された広島へのピースサイクリングなどについて報告がありました。国内外での本物の体験をとおして学んだことを、自身の言葉で一生懸命に伝えておら

れた姿に、深く感銘を受けました。人は、本物の体験をとおして学んだことを言葉にし、誰かに伝えることによって、その体験が自分のものになっていくと信じています。今回の様々な世代の発表を通じて、本当に自分のものになった体験は、人を惹きつけ、新たなつながりを生み出す原動力になっていると改めて感じました。私たち、奈良ユネスコ協会では、会員の高齢化が進んでおり、次の世代への活動をどうつないでいくかが大きな課題です。その意味でも、箕面ユネスコ協会の皆さんの取組は、若い人を育て、大事にしようという熱意が伝わってきて、今年も、大いに学ばせていただいています。また、当日は、朝早くからご準備いただいた気仙沼の食材を、皆さんとともにおいしく楽しませていただきました。お招きいただいたことに心より感謝し、今後もさらに連携を深めさせていただければと思っています。ありがとうございました。



(奈良ユネスコ協会会長 中室 雄俊)

箕面ユネスコ協会「2024年度報告会・気仙沼の食に親しむ会」パート2

2025年2月8日、らいとびあ21で「3.11を忘れない」「気仙沼の食材に親しもう」を合言葉に開催しました。前日より雪が舞い心配された天候の中、奈良ユネスコ協会の中室会長をはじめ多くの皆様に参加していただき、ありがとうございました。



第1部は、北摂つばさ高校の皆さんから、気仙沼や能登・珠洲市のボランティアに参加した体験談。続いて、北芝てらこやメンバーから、ピースサイクリング(6日間かけて自転車で箕面から広島をめざし、子どもたちが平和の大切さや尊さを考える取り組み)の活動紹介。さらには、当協会ユースの川本さんから、ユネスコ青年全国大会や東南アジア青年の船に参加した報告。また、ユースメンバーの西尾さんから、日本代表としてカザフスタンで開催されるGlobal Youth Forumにおいて各国の青年代表と交流する抱負が語られました。国際部の山田さんからは、ネパールの孤児たちの実情、学校に行けるよう少しでも応援したいという思い、来月実施予定のネパールスタディ&ボランティアツアーなど報告がありました。若いユース世代が刺激を受け感動したことを生の言葉で語り、その活躍は頼もしく著しい成長



が感じられました。それは報告の随所に溢れて参加者から賞賛の声が上がりました。

第2部は、気仙沼から届いた海の幸、美味しい地酒、会長特製のはらこ飯などを堪能しながら会話に花が咲き、おいおいに盛り上がりました。会員同士の新しい絆やつながりが生まれて親睦を深められた貴重な会となりました。(大槻 晴美)



● クラウドファンディング 募集開始 ~3月15日が最終



箕面ユネスコ協会
ホームページで
ご確認ください

貧困状態の孤児達の命を救うビヤマさんと共に
ネパールの子どもの力になりたい

★みなさんに知ってほしいスタディーツアーをする理由★

本ツアーを継続する理由は、コーディネートをしてくださる Jeewan Utthen Childrens Home を代表するビヤマさんの活動や彼女の生き方に感銘を受けて、それをサポートしていきたいと思うからです。ビヤマさんは、政府など外部からの援助が一切行き届かない孤児たちを村からカトマンズの孤児院に連れてきて独り立ちするまで生活のすべてをサポートしています。現在3歳~18歳の孤児30人が彼女の孤児院で生活しています。子どもたちの入れ替わりは頻繁にあり、各々のもつ背景は「親との死別」「ネグレクト」「暴力」「脅迫」「性的暴行」など様々です。それらの子どもたちと出会った私たちは、ツアー参加者を通じて、あるいはクラウドファンディングに協力してくださる皆様を通じて、子どもたちの「人生」に少しでも協力できることを切に願い、このツアーを継続しています。ツアーの後半は、これらの子どもたちが生活する孤児院に赴きます。交流を通じて背景にある一人ひとりの課題を知り、現実と向き合い、私たちができることを考える大事なプログラムと位置づけています。



(山田 祐加)

●「ユネスコ世界寺子屋運動」リーフレット作品パネル展●
箕面市立北小学校5年生 & 箕面市立東小学校5年生

1月26日～2月2日、みのお市民活動センターでリーフレット作品パネル展を開催しました。「ユネスコ

世界寺子屋運動」は、さまざまな理由で学校に行けない子どもたちや教育を受ける機会がないまま大人になった方々のために、日本ユネスコ協会連盟が1989年から続けている活動で、これまでに44か国に540の寺子屋を建設、延べ約135万人の人たちに学ぶ機会を提供してきました。日本各地のユネスコ協会(279協会)では、書きそんじハガキや未使用切手などを日本ユネスコ協会連盟に集約し、活動資金にあてています。



♪一枚一枚熱心に見て下さる方々

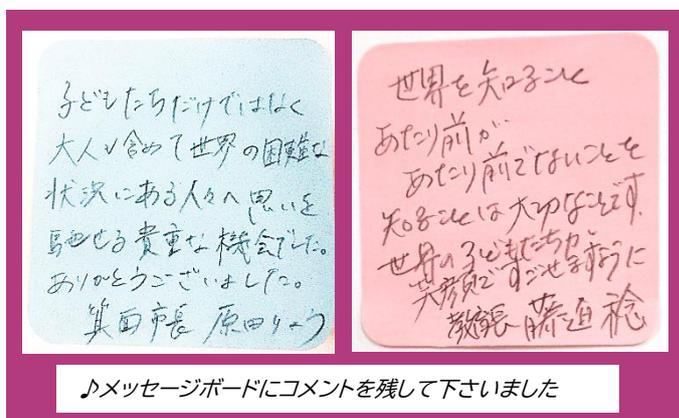
両校の子どもたちは、ネパールの子どもたちとオンライン授業で出会ったり、大学生や高校生からネパールのボランティアツアーやカンボジア寺子屋スタディーツアーの話の聞いたりする学習を通し、世界の識字課題について学びを深めてきました。‘自分たちにできること’の一つとして運動に協力し、書き損じはがきを集めたり、リーフレットプロジェクトに参加して下さったりしています。今年度も、そんな子どもたちの全作品を集め、箕面市および箕面市教育委員会の後援、「(特活)市民活動フォーラムみのお」の協力を得て、パネル展の形で多くの来館者のみなさんに見て頂くことができました。たくさんの方々との協働に感謝したいと思います。ありがとうございました。



♪熱心に聞いて下さる原田市長



♪藤迫教育長とパチリ

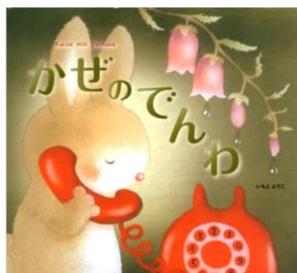


♪メッセージボードにコメントを残して下さいました

●「アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム」●
アサンプション国際小学校5年生

アクサ ユネスコ協会
減災教育プログラム

2017年より、ユネスコスクールとしてさまざまな活動を積み重ねておられるアサンプション国際小学校。今年度は、アクサ生命の協力を得て日本ユネスコ協会連盟が提供するプログラムに参加して下さっています。箕面ユネスコ協会もこの活動に協働し、授業づくりに参画したり、先生方と共に東日本大震災の被災地や東京でのフォーラムに参加したりしてきました。今後も、箕面に根づく「ユネスコ」として、つながりを育てていけたらと思っています。



♪東日本大震災のボランティアをしながら家族を探した日々のことや当時の被災地の状況を伝える坂口さん。震災後、岩手県大槌町にある「風の電話」を訪れた思いを、絵本「かぜのでんわ」に重ねて語りました。子どもたちの、絵本を通して減災への思いを伝える活動につながっていきました。

(大濱 淳子)

● 2024年度 第11回 「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」

2025年1月31日（金）～2月1日（土）東京竹芝にて開催された「第11回『アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム』活動報告会・減災教育フォーラム」に、アサンプション国際小学校、瓶割浩司教頭先生と箕面ユネスコ坂口 一美が地域共同枠で参加いたしました。

今年度助成校が、1年間の活動の成果と課題を共有し今後の減災教育活動の改善と発展につなげることで、今後の減災教育の推進と持続発展に向けてさらなる学びと交流を相互に深めることが目的です。事例発表や パネルディスカッション等2日間にわたる研修はとても充実したもので、他の参加校との意見交換、交流は今後の活動の力となると感じました。

「減災」とは、自然災害においては被害を完全に防ぐことが困難であることを前提に、被害をできるだけ最小限に抑えることをめざすものです。災害発生前、災害発生時、災害発生後、それぞれで私たちができることは何でしょうか。このプログラムでは、避難訓練を中心とした従来型の防災・減災教育にとどまらず、自然災害



害に対して総合的な視点を持って、より実効性の高い防災・減災教育をめざしており、東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目的に、日本各地で今後起こりうるさまざまな自然災害に備えるための防災・減災教育に取り組む全国の学校をサポートする事業です。今後日本各地で起こりうる自然災害に備えるために、子どもたちが学び、考え、行動する教育活動をささえてくれるものと思います。

（坂口 一美）

予告 2025年3月9日「絆つながる応援マルシェ」を開催します

箕面ユネスコ協会では、2014年から毎年「3.11を忘れないチャリティー物産展」を行なってきました。震災から13年を迎えた今年で物産展も11回目となりました。被災地のものだからではなく、美味しいものを皆さんへお届けいたします。

今回は気仙沼向洋高校さんま缶製造実習で高校生が作ったさんま缶を久しぶりに販売いたします

～1.17から3.11そして1.1～災害の記憶と縁を未来へつなぐ

絆つながる応援マルシェ

2025年3月9日（日）11:00～15:00
かやのさんべい橋・みのお市民活動センター玄関前

- 聖歌隊コーラス (11:00～)
- 被災地グループの手芸品 (11:40～)
- 募金活動 (11:30～)
- 元気にNarrow運動 (11:40～)
- 「3.11を忘れない」物産展 (11:30～)
- 韓国の飾り結び (12:00～)
- 防災食の炊出し (12:10～)

今企画された委員会：石川 麻美 渡辺 裕子 藤原 真由美 へ寄付いたします

【主催（共催）】 特定非営利活動法人 市民活動フォーラムみのお 箕面ユネスコ協会
 【協力】 アサンプション国際小学校・中学校高等学校 アサンプション国際小学校 A.S.A. 委員会 アサンプション国際中学校高等学校生徒会執行部
 大阪府社会福祉協議会 北東部事業部 地域コミュニケーショングループ メディア工房「虹」 わせねども・気仙沼手芸コミュニティ
 豊野小地区防災委員会

【問合せ】 特定非営利活動法人 市民活動フォーラムみのお TEL：072-722-2666 メール：forum@minoh-npo.com



海の子 ホヤぼーや



プロフィール
 ホヤのあたりに
 ホヤのベルト、
 サメの皮のマントを
 羽織り、手には
 サンマの傘を持った
 気仙沼の海の子